

# 中大ラグビー 1万人 大イ作戦

秩父宮を中大ブルーで染めよう!

取材&構成 中央大学FLP  
ジャーナリズムプログラム「松本ゼミ」

# 「中大 秩父宮の



「創部90年、スタンドからの大声援で優勝を勝ち取ろう」

「中大ラグビー1万人大作戦～秩父宮を中大ブルーで染めよう」と銘打ったプロジェクトがいま、中央大学ラグビー部の現役とOB、サポーターらによって進められている。

2014年秋の関東大学リーグ戦を締めくくる11月30日の対流通経済大戦。

ここに在校生や卒業生、大学関係者ら「中大一族」を中心に1万人のサポーターに集まってもらい、秩父宮ラグビー場のスタンドを中央大のジャージカラー、ブルーで染め上げようというのだ。

8月20日にフェイスブックにそのページを開設し、「いいね!」の声やコメントは日を追うごとに増えている。

関東大学ラグビーのリーグ戦は、帝京大や早稲田大、慶應大、明治大などが所属する対抗戦と比べて盛り上がりには欠け、両チーム合わせて1000人から2000人台にとどまることが少なくなかった。

# 一族」1万人で スタンドを埋めよう



そんな中であって、「昨シーズン、競技場に学部の友人3人が来てくれた。

それで、勇気が何倍も沸いてきた」とスクラムハーフの長谷川新波選手（総合政策学部2年）は言う。

その数が1万人にも膨れ上がったなら、選手たちの士気はどれだけ高まるか。

この流通経済大戦は、昨シーズンのリーグ戦1位と2位の組み合わせで、NHKで全国中継される。

そこに映し出される中大ブルー。

スタンドを圧する応援の歓声。

1万人ともなると、国内ラグビー最高峰のトップリーグでも集めることは難しい。

「声援を背に最後の試合まで勝利を目指し、何としてもこれを実現したい」

その思いが部員たちの闘志をさらにかきたて、戦力のアップにつながっている。



# 「中大一族」1万人で秩父宮のスタンドを埋めよう

秋を迎え、大学ラグビーの熱い戦いが続いている。そのリーグ戦の開幕試合となった9月13日の立正大戦。25-13で秩父宮ラグビー場にノーサイドの笛が鳴った瞬間、監督の松田雄(41)とヘッドコーチの酒井宏之(42)は、コーチ陣や主将の松山翔一(経済学部4年)、副将の木上鴻佑(法学部4年)ら部員の手を握り、創部90年のシーズン優勝に向けた手応えを確かめ合った。(敬称略)



## 泥臭さに徹する

これより20日ほど前、松田と酒井は64人のラグビー部員とともに長野・菅平高原にいた。

秋のシーズンに備えた10日間の夏合宿。チームの総仕上げに入るこの時期、全国の大学ラグビー部がここに集まってくる。

「芝生の上の格闘技」ともいわれるラグビーは、大学スポーツの華でもある。しかし、松田と酒井が目指しているのは、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」、その理念に徹した泥臭いチームを作りあげることだ。

「ラグビーにもプロ化の波が押し寄せている中であって、大学ラグビーの

神髄はそこにある」

そうした指導方針を打ち出す背景には、運営資金や施設を含む支援体制などの面で中央大ラグビー部が極めて厳しい環境に置かれていることもある。

他の強豪校と比べ部員の数は3分の1と少なく、体格や技量に勝る外国人留学生も迎え入れられない。加えて、グラウンドは他部との共用で、日々の練習にも制約が課せられている。

そうした中で考えられる戦略は、ロースコアの接戦に持ち込み、僅差で勝利をつかむ。それを結実させる

戦術として何より求められるのが、ディフェンスの強化となる。

自己犠牲の精神を貫き、身を挺したタックルで相手の攻撃を一瞬でつぶす。併せて、反則をできるだけ減らし、相手に得点、攻撃の機会を与えない。そこからチャンスをつかみ取り、チームの力を一つに束ねてトライに結びつける。

その戦法は創部以来、「ディフェンスの中央」として引き継がれ、「魂のラグビー」とも評されてきた。その戦いが昨シーズンは見事に蘇り、リーグ戦2位に躍進して全国学生選手権の舞台へと駒を進めた。



# Chuo University Rugby Football Club

## メンタルを鍛える

その復活の狼煙(のろし)をあげる火付け役となったのが、松田が昨年春にヘッドコーチに招いた酒井だ。

中央大ラグビー部は1924年(大正13年)に創部。1967年に関東大学リーグ戦グループが創設された際にはその中心となり、1972年には優勝を手にした。全国学生選手権でもベスト4入りを4回果たしているが、ここ10年ほどは中位から下位に甘んじていた。

そうした状況が続く中で、参加47校のトップ8、1部に残留していれば、という意識が部員や指導者、OB、大学関係者の間に定着。伝統ある部として体育連盟の中核の位置にありながら、勝利への食欲さの面で物足りなさもあった。

「その意識、文化を変えなければ、チームは強くなれない」。監督に就任して4年目。変革の切り札として松田が白羽の矢を立てたのが酒井だった。

酒井は松田がラグビートップリーグ

「RICOH」に所属していたときに主将を務め、卓越した統率力、指導力、明るい人柄で選手たちの人望を一身に集めていた。また、リーグ戦のライバル、大東文化大が1994年に大学日本一に輝いたときの主力メンバーでもあった。

「ラグビーで必要なことは、小手先の技術ではなく、燃え尽きる反骨心、勝利へのあくなき執念」

日本一を経験した指導者に、まずはメンタル面から鍛え直してもらおう。その狙いから、東福岡高校在学時に全国高校ラグビー選手権大会で優勝経験を持つ山北純嗣を主将に指名して部全体の意識改革に取り組み、1年目で早くもそれが形となって現れた。

## Cブロックを積み上げる

そのうえで迎えた2年目の春。交流大会がそのスタートとなったが、帝京大や早稲田大、流通経済大などと



松田監督(左)と酒井ヘッドコーチ

の対戦ではトライを量産され、5戦全敗という結果に終わった。

4年生が卒業して新たに1年生を迎え、チームのメンバーも大きく入れ替わった。その中で浮かび上がった課題は、やはりメンタル面の弱さだった。

最上級の4年生にチームを引っ張る気迫が薄い。タックルしなければならぬ場面では「誰かがやるだろう」。結果、防御のラインを簡単に破られ、相手に縦横無尽に走りまわられる。

その後の週6日のトレーニング。走力と基礎体力を強化するために、4年生を先頭に午前200mを40秒以内で全員が走りきる。午後はフォワード、バックスが別々に、また一体となって実践的な訓練を繰り返す。

それにとどまらず、八王子市堀之内の合宿所での寝起きを通して規律の順守を徹底し、反則をしない意識を刻み込む。

ブロックを丹念に積み上げていくように、中央大が追い求めるチーム像の完成に向けて課題を一つずつ克服していく。

大学のシンボルマーク「C」をとり、それを「Cブロック」と名付けて部員全ての合言葉に据えた。





# 「中大一族」1万人で秩父宮のスタンドを埋めよう

## 発展途上、さらに強く

「誰がミスしたかではなく、誰が助けなかったか」。ブロックが積み上がっていく中で、その意識が自然と芽生え、8月16日から始まった菅平での合宿では、春のときとは別のチームに進化を遂げていた。

関西の強豪、近畿大と関西学院大、京都産業大、天理大との練習試合でAチームは2勝1敗1分け。いずれも接戦、僅差の戦いとなった。

関学戦では後半を0点に封じて逆転、京産大戦でも後半に伝統の粘りを発揮し、いずれも1トライ差で勝利を収めた。

リーグ戦初戦の立正大戦では一時逆転を許したものの、相手の攻撃を激しいタックルでつぶして反撃に転じ、終了間際に2つのトライを決めて突き放した。

「ぎりぎりまで攻め込まれても絶対にあきらめない」「ボールを獲得したときは全員が1本の矢となり、怒涛となって相手ゴールになだれ込む」

それは春から築き上げてきた理想とするラグビーの完成でもあった。

「4年生を中心にチームがまとまり、モチベーションも昨シーズンの開幕時と同じレベルに達した」と主将の松山。「まだまだ発展途上。団結力を引き揚げ、さらに強くなっていきます」と自信をみなぎらせた。



開幕試合の立正大戦に勝利し、優勝に向け士気上がる中大ラグビー部員

## 縁の下で支える3人の女子マネージャー

中央大ラグビー部には現在、3人の女子マネージャーがいる。4年生の川端葉那さん(文学部=写真中央)と3年生の勝又理沙さん(文学部=同左)、長谷川綾乃さん(商学部=同右)だ。

入部を決めたきっかけの一つは、自分を犠牲にしてチームの勝利に貢献するラグビーの精神にひかれたこと。それに、「中大一族」の言葉そのままの部を包む家族的な雰囲気、心が和んだこと。最後に背中を押してくれたのは、「『一緒にやろうぜ』という監督とコーチの言葉でした」と口をそろえる。

練習や試合があるときは、グラウンドに一番乗りしてスポーツドリンクを作る。そのボトルを入れたケースは一つの重さが8キロにもなるが、プレーの合間にそれを両手に持って選手のもとに走る。そのときはケースが体に当たり、足はいつもアザだらけだ。

ラグビー協会などとの連絡、大会の運営会議や学内の会議への出席。加えて、部のホームページの更新、試合開始前の受付など担当する業務はこのほか多岐にわたり、夜10時を過ぎても帰宅となることも少なくない。

そうした中で、達成感を味わえる瞬間がいくつもあり、最もそれを感じるの、試合に勝って選手たちの弾ける笑顔を目にしたときという。

「勝つために懸命の努力をしている選手たちをサポートするのが私たちの役目。その努力が実を結び、喜ぶ姿を見ると本当に嬉しい」

ラグビー部はいま、マネージャーとトレーナーを募集中だ。



「応援よろしくお願いま〜す」

## 中央大学ラグビー部 創部90周年記念式典・祝賀会



中央大学ラグビー部創部90周年の記念式典・祝賀会は、7月13日に中央大学駿河台記念館で開催され、現役の部員や監督・コーチ、歴代OBなど約400人が集結した。

日本ラグビーフットボール協会会長の森喜朗元首相らが来賓として出席。森氏は「中大ラグビー部がさらに飛躍し、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップに向けてラグビー人気を高めていこう」と述べた。

松田雄監督は「前を向いて着実に成長し、勝利していきたい」と抱負を述べ、90周年の節目に監督を務められることへの感謝と責任を語った。また、松山翔一主将は、「リーグ戦優勝を目指して、中大ラグビー部の歴史を上乗せしていきたい」と今後のチームの成長を誓った。

最後に出席者全員で校歌を斉唱し、会場は「中大一族」の一体感に包まれながら閉会した。

## ゼミ紹介／中央大学FLPジャーナリズムプログラム「松本ゼミ」



部員を取材する松本ゼミの面々

この特集は、中央大学FLPジャーナリズムプログラム「松本ゼミ」が担当しました。

指導教官の松本正特任教授は1970年に中央大学法学部卒。朝日新聞社に入社し、社会部長、編集局長など務めた後、2005年度から本学でゼミを開講。卒業生のうち20人余りが新聞社やテレビ局、出版社などマスメディアに進み、取材、報道の最前線で活躍しています。

記事と写真＝桑原阿希(法学部4年・NHKに採用内定)▽地引今日子(経済学部4年)▽大井みなみ(理工学部3年)▽恩田薫(文学部3年)▽金井芽(法学部3年)▽韓超(経済学部3年)▽中塚千幸(法学部3年)▽畑志奈(法学部3年)▽藤井睦美(法学部3年)



## 中央大学ラグビー部 監督・コーチ・選手一覧

	氏名	出身大学
監督	松田 雄	中央
ヘッドコーチ	酒井 宏之	大東文化
FW コーチ	中村 浩二	中央
FW コーチ	野口 英彰	成蹊
BK コーチ	有田 啓介	中央
BK コーチ	佐藤 りゅうせい	中央
ウェイトコーチ	渡部 謙吾	大東文化
アドバイザー	中山 浩司	近畿
トレーナー	山下 愛	

氏名	学年	学部	出身高校
松山 翔一	4年生	経済	國學院久我山
岡崎 健人	4年生	文	九州学院
新井 亮介	4年生	商	東京農大第二
北村 彦樹	4年生	文	常総学院
井坂 健人	4年生	法	清真学園
諏訪 弘樹	4年生	法	伏見工業
柳 亮宇	4年生	商	太田
山本 裕貴	4年生	法	富山第一
加藤 友彬	4年生	商	國學院久我山
田井 直樹	4年生	経済	伏見工業
室屋 佳太	4年生	文	延岡星雲
木上 鴻佑	4年生	法	伏見工業
水上 琢磨	4年生	経済	大阪桐蔭
中田 智夫	4年生	文	九州学院
山田 英士	4年生	法	桐蔭中等
松井 完至	4年生	文	明和県央
大林 翔太郎	4年生	経済	筑紫
鈴木 健士郎	4年生	法	秋田中央
高田 優成	3年生	経済	大阪桐蔭
立石 和斗	3年生	文	筑紫
福田 貴大	3年生	文	東京農大第二
西野 嘉修	3年生	文	大阪桐蔭
山下 諒之	3年生	法	筑紫
小野 雄貴	3年生	商	高崎商業
井坂 龍星	3年生	法	清真学園
山本 将也	3年生	文	向上
西前 耕平	3年生	経済	御所工業
久住 祐輝	3年生	文	東京
高 悠也	3年生	商	明和県央
黒崎 将斗	3年生	商	明和県央
渡辺 広人	3年生	経済	日川
天田 親吾	2年生	文	静岡聖光学院
三宮 累	2年生	経済	東京

氏名	学年	学部	出身高校
浦田 真秀	2年生	経済	九州学院
鎌野 健太	2年生	文	報徳学園
井村 兼人	2年生	経済	伏見工業
赤池 海	2年生	法	日川
水島 拓也	2年生	商	筑紫
住吉 藍好	2年生	経済	光泉
長谷川 新波	2年生	総合政策	桐蔭学園
浜岸 峻輝	2年生	経済	東京
白石 凱人	2年生	文	高鍋
井出 三四郎	2年生	法	國學院栃木
市川 功大	2年生	商	大分舞鶴
笠原 開盛	1年生	経済	桐蔭学園
佐野 瑛亮	1年生	商	東京
松岡 純平	1年生	経済	九州学院
中野 龍之介	1年生	商	佐賀工業
佐々木 陸	1年生	商	北園
上善 大輝	1年生	商	東福岡
森 凌馬	1年生	経済	生田
白井 吾士矛	1年生	法	桐蔭学園
牧野 真也	1年生	経済	清教学園
伊藤 大地	1年生	法	東京
三枝 優介	1年生	経済	日川
床田 裕亮	1年生	文	桐蔭学園
播谷 直紀	1年生	経済	報徳学園
安部 健太郎	1年生	経済	福岡
吉中 悠太郎	1年生	文	東福岡
山口 泰弘	1年生	法	日川
内野 翔太	1年生	文	保善

マネージャー			
川端 菜那	4年生	文	平塚学園
勝又 理沙	3年生	文	希望ヶ丘
長谷川 綾乃	3年生	商	一宮西

## 中大ラグビー部、今季成績・日程 関東大学リーグ戦

▽第1戦	9月13日 立正大 ○25-13	秩父宮ラグビー場
▽第2戦	9月28日 法大 ●27-37	上柚木陸上競技場
▽第3戦	10月5日 日大 ●15-19	キャノンスポーツパーク
▽第4戦	10月19日 山梨学院大	町田陸上競技場
▽第5戦	11月3日 大東文化大	上柚木陸上競技場
▽第6戦	11月15日 東海大	ニッパツ三ツ沢球技場
▽第7戦	11月30日 流通経済大	秩父宮ラグビー場

\*中大生は学生証提示で入場無料